

ASTERIA Warpを バージョンアップする際の判断基準と導入 価値を最大化させる方法とは？



はじめに

ノーコードで業務自動化を支援するASTERIA Warp。

「保守期限が迫り、バージョンアップを迷っている」

「システム更改に併せて見直しを検討中」という方も多いのではないのでしょうか。

年2回、ASTERIA Warpは新バージョンが公開されますが、

タイミングや自社システムの状況によってはバージョンアップを控えたほうが良い場合も。

ASTERIA Warpを使用した20年以上の経験と500社以上の支援実績をもつ

パナソニック デジタル株式会社（以下、パナソニック デジタル）から、

バージョンアップのメリット・デメリット、タイミングを判断するポイントをご紹介します。

ASTERIA Warpの価値を最大限享受したいという場合には、是非ご参考ください。



目次

はじめに	P2
ASTERIA Warpのバージョンアップサイクル	P3
ASTERIA Warpのバージョンアップパターン	P4
バージョンアップを実施するメリットデメリット	P5
ASTERIA Warpバージョンアップを検討する3つの理由	P6
バージョンアップをすべきか否か判断する際のポイントとは	P7
ASTERIA Warpバージョンアップ時のパートナー選定ポイント	P8
ASTERIA Warpバージョンアップにおけるパナソニック デジタルの強み	P9
ASTERIA Warpの機能を最大限生かすには、パートナー選定が最重要	P10

ASTERIA Warpのバージョンアップサイクル

ASTERIA Warpは6月と12月、年に2回のペースで新バージョンが公開されています。

バージョンアップ時は機能改善やコンポーネントの追加、既存コンポーネントの改善などが行われておりますが、2024年12月のバージョンアップでは、SOAPコンポーネントの廃止、Java8⇒Java21への更新など、大きな変更がございました。

バージョンアップに反映される項目一覧



ASTERIA Warpの機能改善

新規コンポーネントの追加

既存コンポーネントの改善

新規アダプターの追加

DB の最新バージョンへの適用

セキュリティ強化

機能やコンポーネントの廃止 etc...

2024年12月の主な変更点



コンポーネント追加 / 拡張 / 廃止

- Teamsへメッセージを送信するコンポーネントを標準機能として追加
- SOAP実行設定(SOAPトリガー)、SOAPテンプレートフローの廃止
- JSONEncode/JSONDecodeコンポーネントの廃止



基盤技術

- 対応するJavaのバージョンを21へ更新



管理コンソール (FSMC) 機能の追加/改善

- フローの平均実行時間や実行回数などを可視化する機能を追加
- 管理コンソールの画面操作権限をカスタマイズできる機能を追加

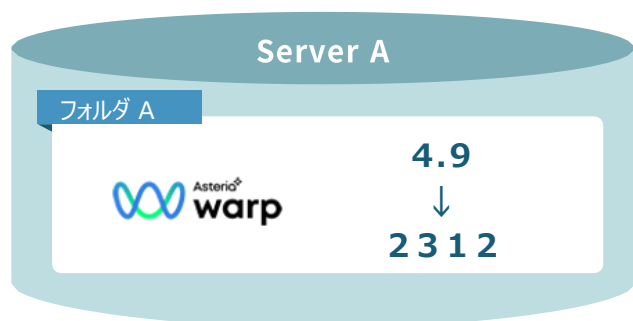
ASTERIA Warpのバージョンアップパターン

ASTERIA Warpのバージョンアップパターンは、主に以下の 3パターンに分けられます。

自社の状況がどのパターンのマッチするのか、事前に確認しておきましょう。なお、現環境への影響やテストの容易さを考えると、**下記のパターン③が最もおすすめ**です。

パターン01

導入されている環境のASTERIA Warpに上書きインストールする

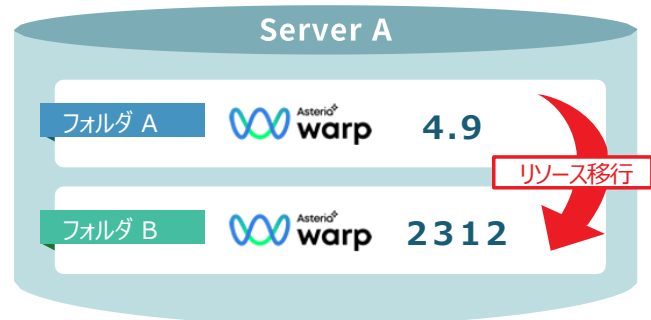


特徴

- ・上書きインストールによりリソース（フロー、接続設定、実行設定）移行の必要がないインストールエラー時のリカバリープランが必須
- ・ASTERIA Warpを停止する必要がある

パターン02

導入されている環境のASTERIA Warpとは異なる領域（別ドライブ、別フォルダ）にインストール後、リソースを移行する

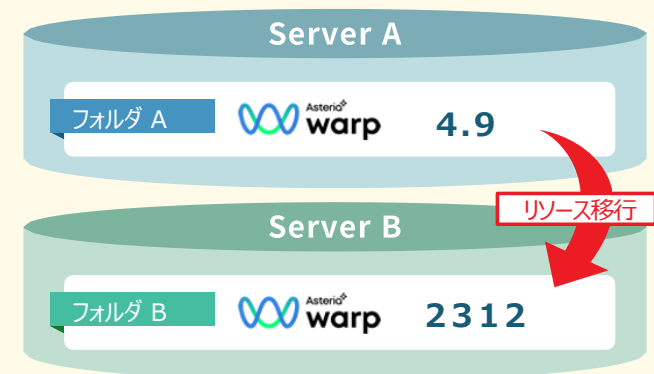


特徴

- ・別領域（ドライブ、フォルダ）上にインストールする為、停止の必要がない
- ・使用するポート番号を変更する必要がある（並行稼働の場合）
- ・リソース（フロー、接続設定、実行設定）の移行が必要
- ・並行稼働とした場合、別ライセンスが必要

パターン03

新設される環境に新規インストールし、リソースを移行する



特徴

- ・別環境へインストールする為停止の必要がない
- ・同一フォルダ構成での構築ができる
- ・使用するポートを変更する必要はない
- ・リソース（フロー、接続設定、実行設定）の移行が必要
- ・並行稼働とした場合、別ライセンスが必要
- ・接続先（HTTP等）の切り替えが必要

バージョンアップを実施するメリット・デメリット

ASTERIA Warpをバージョンアップする際は、以下のようなメリット・デメリットが存在します。
バージョンアップ実施のタイミングや可否を判断しやすくなるため、事前に把握しておきましょう。

メリット

新機能や改善された機能が利用できる



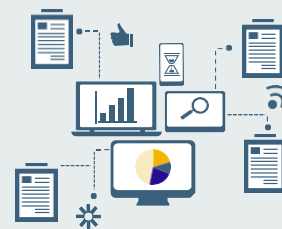
例として、UIにおける機能追加や開発時の利便性と、メモリ使用量の改善を実現

新しい接続先とつながられる



最新DB、サービスへの対応が可能

利用できるアダプタが増える



アダプターの更新、新規アダプターの追加が可能

デメリット

操作性が変更される



UI機能追加により、操作性が悪くなったと感じる場合がある

古いバージョンの接続保証がなくなる



DBバージョンが保証範囲から外れる場合がある

コンポーネントの仕様が変更される



バージョンアップにより内部処理が変更となる場合がある

コストがかかる



一時的な追加ライセンス購入、環境移行、動作確認等が必要

ASTERIA Warpバージョンアップを検討する3つの理由

ASTERIA Warpのバージョンアップは、メリット・デメリットを把握するだけでなく、よくある検討理由も参考にしましょう。
検討理由は主に下記の3つが挙げられます。

01 新機能を使用するため



バージョンアップを実施することで、新たなる利用できる機能やコンポーネントが追加されます。それらを活用することで、開発や運用管理の効率化が可能です。

02 サポート切れに対応するため



メンテナンスサポートの期限切れに合わせてバージョンアップすることで、引き続きサポートを受けられます。サポートプランがベーシックプランの場合、契約更新のタイミングでスタンダードプランにアップグレードすることで、保守期限を延長することも可能です。

03 システム更改、周辺機器のバージョンアップに合わせるため



セキュリティ対応をはじめとしたOSのバージョンアップが必要な場合や、接続先システムの更改のタイミングで動作保証されているバージョンにバージョンアップを実施することで、継続サポート受けられます。

バージョンアップをするべきか否か判断する際のポイントとは

ASTERIA Warpをバージョンアップする際は、状況によって受けられるメリット・デメリットが変わるため、状況に応じた判断が必要です。以下は、2106のバージョンを使用しており、メンテナンスサポートが2027年6月に迫っている場合のバージョンアップ検討案のひとつです。以下の例以外での、最適なバージョンアップタイミングについて知りたい方は、P10よりパナソニック デジタルにお問合せください。

例 ASTERIA Warp含む各システムをクラウドサービスにリプレースする計画

概観

- 各システムのOSはWindowsServerの最新バージョンとする
- ASTERIA Warpの接続先であるDB(PostgreSQL13) は、最新バージョンへのバージョンアップが予定されている
- ASTERIA Warpのバージョンは2106であり、メンテナンスサポート期限は2027年6月まで

暖融旅

DBも最新バージョンとし、それに合わせて
ASTERIA Warpもバージョンアップする

2 DBのバージョンをせず、OSに対応したバージョンアップ
を検討する
→可能であれば最新バージョンへのバージョンアップが
理想。DBも最新バージョンとし、それに合わせて
ASTERIA Warpもバージョンアップする。

バージョン	ASTERIA Warp		WindowsServer バージョン	PostgreSQLバージョン	
	フルサポート期限 (ベーシック)	メンテナンス サポート期限 (ベーシック)	2022	PostgreSQL 13	PostgreSQL 15
2312	2025/12/31	2028/12/31	○	○	○
2306	2025/06/30	2028/06/30	○	○	×
2212	2024/12/31	2027/12/31	○	○	×
2206	2024/06/30	2027/06/30	○	○	×
2112	終了	2026/12/31	×	○	×
2106	終了	2026/06/30	×	○	×

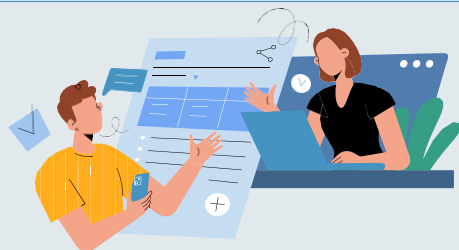
1

2

ASTERIA Warpバージョンアップ時のパートナー選定ポイント

ASTERIA Warpをバージョンアップする際は、パートナーの対応によってその後の導入価値が変わる場合があります。

特に、下記の項目を満たしている場合、バージョンアップ作業自体だけでなく、同タイミングでの改善対応により、システムの利便性をさらに高めることが可能であるため、事前に確認しておきましょう。



ASTERIA Warpの導入実績の有無を確認する

導入・バージョンアップに際しノウハウが豊富なパートナーであれば、技術や開発体制、作業分担などについての情報を漏れなく提供でき、安心して導入・バージョンアップを任せられる。



自社に合う運用しやすいシステム構成を実現できる

ASTERIA Warpの導入実績はもちろん、クラウドやネットワークにおける導入実績が豊富なパートナーであればインフラをセットで構築できる。



マルチベンダー対応が可能かどうか確認する

マルチベンダー対応ができないパートナーの場合、自社で各ベンダーとの連携を実施する必要があり、工数が大幅に増える可能性がある。

ASTERIA Warpバージョンアップにおけるパナソニック デジタルの強み

パナソニック デジタルは以下の強みを有しており、ASTERIA Warpの導入価値を最大限に高めることができます。



ASTERIA Warpを使用した20年以上の 経験と500社以上の支援実績がある

ASTERIA Warp導入・バージョンアップでもノウハウが豊富なため、自社のシステムに最適なバージョンアップ支援の実施が可能。バージョンアップすべきか否かのアドバイスもできる。



インフラもセットで構築ができる

パナソニック デジタルはクラウドやネットワークに加え、データ分析基盤の導入実績も豊富なため、インフラやデータ分析基盤もセットで構築できる。また、長年の実績やノウハウの蓄積により、将来の運用面を見据えたシステム構築を実現できるため、内製化を進める際はノウハウの吸収もできる。



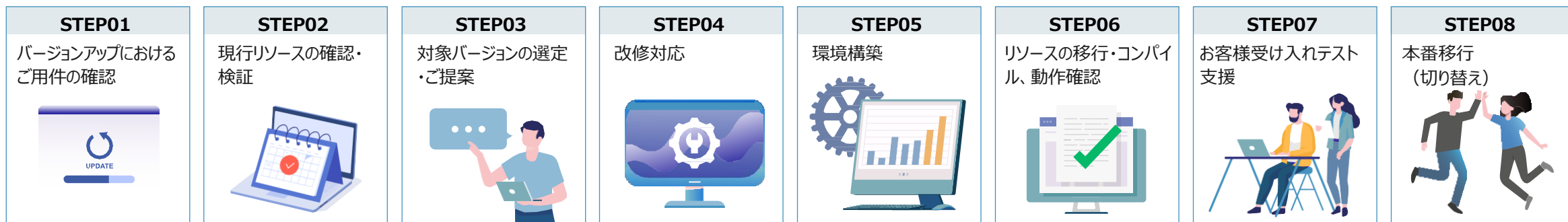
マルチベンダー対応が可能

マルチベンダーにおけるシステム構築の際、パナソニック デジタルがベンダー各社と連携するため、インターフェースの設計を円滑に進めることが可能。

ASTERIA Warpの機能を最大限生かすには、パートナー選定が最重要

ASTERIA Warpの機能を最大限生かすため、自社のシステム構築状況やASTERIA Warpの利用目的を俯瞰した視点でシステム構築することが重要です。そのためには、パートナーの選定が鍵を握ります。パナソニック デジタルは、ASTERIA Warpを使用した20年以上の経験と500社以上の支援実績から様々なノウハウを有しているため、各社にあった支援が可能です。支援内容や費用について詳しく知りたい方はぜひお問い合わせください。

パナソニック デジタルによるASTERIA Warpバージョンアップまでの流れ



ASTERIA Warp のバージョンアップでお悩みの方は
パナソニック デジタル
にお問合せください

お問合せはこちら



資料請求はこちら



ご連絡先

パナソニック デジタル株式会社

<https://service.digital.panasonic.co.jp/solution/data-driven/asteria>

大阪本社 住所：〒530-0013 大阪府大阪市北区茶屋町19番19号

東京本社 住所：〒104-0061 東京都中央区銀座8丁目21番1号

Panasonic